さんぽみち

鵜の木地区地域情報紙

平成17年1月1日号　第40号

発行：わがまち大田鵜の木地区推進委員会

編集：鵜の木地区　地域情報紙編集委員会

事務局：鵜の木特別出張所　電話(3750)4241 FAX(3750)2418

新しい年にふるさとを想う

新年あけましておめでとうございます。「さんぽみち」新年号に寄せて、各町会より、それぞれのふるさとについてご寄稿いただきました。

鵜の木東町会

昭和二十年十一月、小学二年生だった私は、日本の敗戦により朝鮮が解放されたため、韓国全州から引き揚げて来ました。その頃の全州は、戦争の怖さもなく静かでした。広い川があり、平野に囲まれた町が懐かしく思い出されます。

気候は日本と同じ四季の移り変わりがあり、冬は零下になる日が多く、韓国伝統の床暖房「オンドル」があり寒さをしのいだようです。

当時私の家族は、父は軍隊、母と兄弟達と、徒歩、貨車、船で、日本人団体と引き揚げてきたことを覚えています。九州長崎へ着いたのは十二月初旬だったとか、二度と行きたくないと子ども心に思っていた私ですが、六十年前とは変わった全州、訪ねてみたい―。（西村　碧）

鵜の木西町会

我がふる里は、白砂青松の九十九里浜に程近い農村地帯である。空は青く、海は限りなく広い。冬の夜満天に星が輝き、風にのって波の音が聞こえてくることもあった。時はゆったりと流れていた。

大漁の日には、棒手振り（ぼてふり）が威勢のいい声でやって来た。当時はどこの家でも子どもが多く、日暮れになるまで遊びまわっていた。貧しかったが心は豊かだった。

春にはヒバリが空高く舞い、夏の川遊び、秋のトンボ捕り、冬の竹馬等々思い出は尽きない。

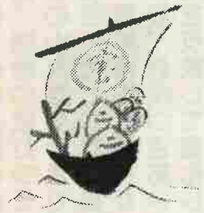
光陰矢のごとし。上京してから早五十年。今でも彼岸には決まって墓参りに行く。あたりの景色はすっかり変わってしまったが、土のにおいと風の音は昔と変わらない。（佐瀬　光男）

鵜の木二丁目町会

新年あけましておめでとうございます。

昨年八月、急に思いついて幼い頃を過ごした茨城県古河市の花火大会を二十年ぶりに見に出かけた。駅前や町並みはすっかり変わってしまっていたが、ところどころに昔の風情も残っている。雄大な渡良瀬川で打ち上げられる花火に、私の気持ちはすっかりタイムスリップし、懐かしさで胸が熱くなった。ふるさととは、こんなにも人の心に残っているものなのか…。

東京にはめずらしいくらいに自然にも恵まれた鵜の木の町で育つ子供や孫たちにもきっと、ひとつひとつが思い出となって残り、大切なふるさとになるに違いない。今年も、お互いに良い年となりますように。（岩間　百代）



鵜の木特別出張所だより

秋の受賞者

おめでとうございます。（順不同・敬称略）

【防犯栄誉金賞（警察庁長官表彰）】
鵜の木東町会　佐藤　大助

【東京都明るい選挙推進大会　永年功労者・二十年特別表彰】
鵜の木東町会　久保井　正雄

【東京都知事表彰（民生委員児童委員在職二十年以上）】
鵜の木西町会　竹林　佐知子

地域の行事

◆鵜の木三丁目町会どんど焼き
日時・一月九日（日）午前九時～
場所・多摩川河川敷

◆町会連合会新春懇親会
日時・一月十八日（火）午後六時～
場所・区民プラザ

民生委員・児童委員の交代

民生委員・児童委員が、平成十六年十一月三十日をもって任期満了になり、十二月一日付けで新委員の任命となります。退任される民生委員・児童委員の方々にはお世話になりました。新しく委員になられる方々には、これからよろしくお願いします。（順不同・敬称略）

【旧委員】
竹林　佐知子
石田　フミ子

【新委員】
加茂　瑠美子
美谷島　善昭
久保井　加津子

編集後記

家族お揃いで初春を迎え、心よりおよろこび申し上げます。「さんぽみち」平成三年創刊してから今回で四十号の節目です。幼い頃の遠い日々の想い出、忘れ得ないあんなこと、こんなこともあったと、皆さんに語っていただきました。「さんぽみち」に皆様のご投稿をお待ちいたしております。

編集長　池田　進太郎

☆情報紙に対するご意見・ご感想などを事務局までお寄せください。
【事務局】鵜の木特別出張所
電話　3750－4241
FAX　3750－2418

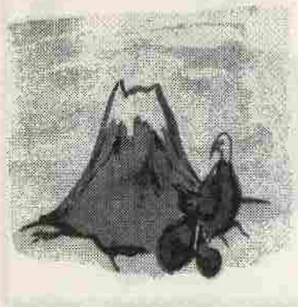
鵜の木特別出張所管内の人口	
男	10，584人
女	11，262人
計	21，846人
世帯数	11，017世帯

◇平成16年11月1日現在◇

鵜の木三丁目町会

嫁いで三十年、鮨屋という商売柄のんびりとお正月を迎えたことがありません。私の故郷は愛知県西尾市という所で、お正月の三が日は、「福を掃き出す」と箒を使うことを許されませんでした。お雑煮のお餅は焼かずに白味噌仕立てで、普段の味噌汁が赤い八丁味噌でしたので、新鮮だったことを覚えています。それと、三河万歳の本家本元ということで、派手な太夫と才蔵が鼓を打ち祝言を述べながら何組も回ってきたものです。「とろくせーこと言わすな」「わかっとるでよ」と乱暴な三河弁で囃し立てたものです。今年は、父の法要もあり、心置きなく三河弁を話しながら健在な母と墓参りをしたいと考えています。

（根本　久江）



千鳥南町会

新年あけましておめでとうございます。私の故郷は、北海道の旭川に程近い「当麻（とうま）」という町で、大雪山を眺望できる農林業の盛んな所です。最近では、黒色でとても甘く、高価な「でんすけすいか」がテレビでも紹介され有名になっています。故郷の正月というと、子供の頃農家の方が家族で馬ソリに乗って初詣に来ていたことを思い出します。寒さは厳しく、氷点下三十度になる日は水道管が凍って水が出ないこともありました。

現在は千鳥町に住み、町会の方々といろいろな行事を楽しく行っています。本年も、生まれ故郷を胸に、第二の里「千鳥町」の明るい町づくりに協力できればと思っています。

（岡田　克之）

千鳥北町会

私のふる里は静岡県。テレビや旅行雑誌でおなじみの、煙を吐いて渡るSL、大井川鉄道第一鉄橋の先、笹間渡駅下車。駅前は最近掘り当てた町営川根温泉でにぎわう。ダム湖にそって、大井川の支流笹間川の渓流沿いの道いくつかの集落を過ぎていくと、先の大戦で疎開していたのが縁で夏樹静子文庫がある。笹間地区が舞台の作品もあるそうだ。山間部のこの地は、林業とお茶の栽培が盛んだ。お茶は川根茶として親しまれている。夏休み、我が家は毎年全員で田舎へ行く。沢登り、山登り、冷たい渓流で時間がたつのを忘れて遊ぶ。東京生まれの妻や娘達には、今では故郷なのだ。兄嫁さんありがとう。

（金川　進）

南久が原一丁目町会

温かい日射しにどこのうちにもあった縁側、近所のおばさん、おじさん「いい天気だねえ」なんてことを言いながら縁側に腰を下ろす。奥からおっかさんがお茶をいれ、時には「貰いもので」と饅頭なぞを出し、お互いに遠慮なく話に花を咲かせる縁側という、実に快適なふれあいの場所がありました。小さい頃よく日向ぼっこをして遊んだ場所でもあり、今もなつかしく思い出として残っております。

見渡す限りの田んぼの広々とした光景、瑞穂の波打つその先には筑波の山々がはっきり見ることができたのどかな農村でした。今、昔の面影は見るかげもなく変わり、近所づきあいも今日の世相を反映して変化しましたが、心の中には幼かったあの頃のなつかしく、暖かいふるさとの光景が今も生き生きと息づいています。

（平川　渓夫）

新春詠

初日さす多摩川べりに吾子三人並びてたてば嬉しくもあるか

荒びたる険しき世なれど健やかにただ健やかに育ちゆけ汝よ

父母の希ひ承けつゝ羽根に風に見らの望みは高く昇りゆく

見渡せば富士は遥かに空は青く吾が故郷はいよゝうるわし

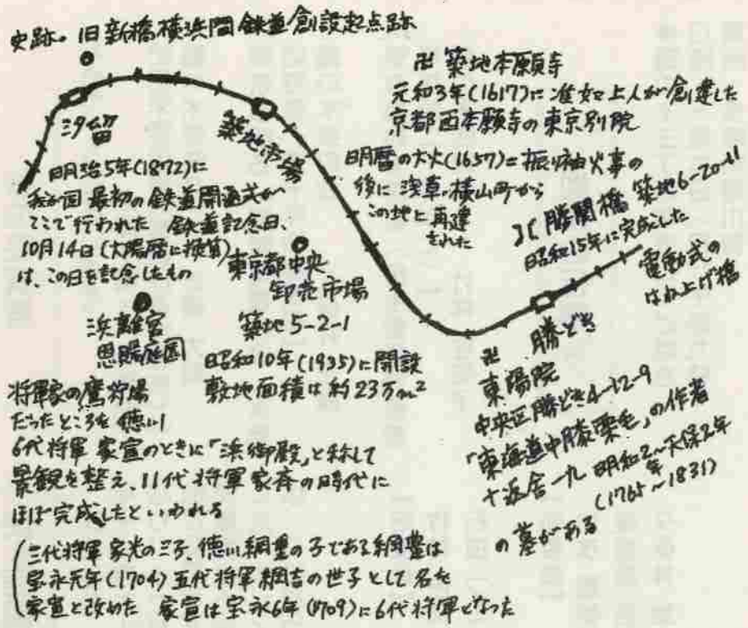
鵜の木西町会　渡辺　節子

散歩してみませんか

―都営地下鉄大江戸線・勝どき～汐留―

都営大江戸線沿線の名所・旧跡を、手書き地図とともにご紹介します。勝どきから汐留間の寺院を訪ねるなど、歴史を感じながら散歩してみませんか。

さんぽしてみませんか
都営地下鉄大江戸線　その9　勝どき～汐留
千鳥一丁目　水野敬司



JR新橋駅東口　ゆりかもめ線への連絡階段前に、C-58機関車の動輪のモニュメントが設置されており、その右側に「鉄道唱歌の碑」があります。「汽笛一声新橋を」で始まる大和田建樹作詞、多梅稚（おおのうめわか）作曲の「鉄道唱歌東海道編」は六十六番・神戸までであります。中央線にも七十番までの鉄道唱歌があります。ちなみに一番は「汽笛一声わが汽車は　はやはなれたり飯田町　牛込、市谷、堀の端、四谷出ずれば信濃町」当時は飯田町が始発駅でした。

（水野　敬司）

俳句

月の出や　動きはじむる
冬山河

悠々と　牛よぎりゆく
枯野かな

現し世を　ふと忘れたる
寒夕焼

冬銀河　真夜たしかなる
鳥のこえ

小寒や　古りしアルバム
他人めく

鵜の木二丁目町会
林　美智子

リレーエッセー

私がこの町に移り住んで三十三年になり、その頃は六郷用水路も整備されず、下水も完備していませんでした。我家の軒先につるしてあった鳥かごのインコを丸呑みにし、出られなくなったヘビがいて、腰を抜かすほどびっくりした。

庭にはヒキガエル、山椒の木には孵化寸前の揚羽蝶のさなぎも、蝶になり飛んでいった。お隣の大木には、ムクドリが巣作りし、ひなに餌を運んでくる様子を二階の窓から観察した。子供達と身近なところで学習ができて、感動もいっぱいありました。

今ではずいぶん景色も変わってきましたが、六郷用水路も遊歩道として整備されました。義母が病で倒れた時、車椅子での散歩はこの遊歩道でした。四季折々の花々、木々の移り変わり色づき、そして小鳥のさえずり、うぐいすの鳴き声、感動したものです。今でも私は散歩を楽しんでいます。私の大好きな町です。（鵜の木東町会　萩原　和子）